

中国における第三世代農民工の 都市適応の問題——

深センの第三世代農民工の社会関係資本に注目して

ZHENG Xiaoping

本研究の目的は、1990 年代以降に生まれた農民工の社会関係資本の内実及び都市生活への適応に対する機能を明らかにすることである。具体的には新世代農民工の若者の就労や友人関係の形成に注目し、いかなる資源をどのように活用しているかについて質的な調査分析を行う。

現時点で中国総人口約 2%を占めている農民工は日々進展する都市化の中でインフラ建設を支える重要な人的資源として、中国の産業発展のために不可欠な存在となっている(王・大島 2021)。中国社会科学院の王春光研究員が 2001 年に「新世代農村流動人口」という概念を初めて提唱した。一般的には 1980 年代以降生まれの農民工のことを新世代農民工と呼ぶ。しかし、時間が経つとともに、農民工の数は増加し続け、内部で新たな分化が生じている(何磊 2005)。単純に農民工を「旧世代」と「新世代」の二つの世代に分けるだけでは、農民工の複雑さ、多様性、および世代の変遷を正確に理解することができない。そのほか、1978 年改革開放以降に生まれた農民工たちはすでに 40 歳を超えており、新世代農民工という区分はもはや有効性を失っている。

加えて、中国の特殊な都市と農村の二元的な構造、戸籍および福祉制度により、新世代農民工の都市生活への適応には様々な課題が存在する。都市に移動する農民工は個人として生活しているわけではなく、さまざまな社会的な関係の中で生活して、その社会的なネットワークが都市で生活する農民工にとって重要な資源となっている。したがって、ソーシャル・キャピタルを適当に活用することで、彼らが都市に溶け込むことができる(孟 2019)。よって本研究では、社会関係資本を手がかりとして第三世代農民工の都市への適応問題を分析していく。

本論文の各章の構成は以下のとおりである。

第 1 章では、問題の所在、目的、リサーチクエスションについて整理する。第一世代農民工と 1980 年代以降に生まれた新世代農民工のイメージと状況を整理し、新世代農民工が存在している問題と都市生活についての先行研究を検討する。今農民工の主力としての新生代農民工の内部

でも多様化は進行していることが推察されている。基礎データが不足しているので、新世代農民工に注目していく必要がある。第 2 章では、本研究の方法、および調査対象の基本情報に関するデータの概要を述べる。具体的には、本研究の調査フィールドである。深センの特徴と研究協力者である第三世代農民工の基礎情報について整理する。第 3 章では本研究の分析枠組みである社会関係資本について、特に中国における議論の状況について述べる。第 4 章ではデータの分析を行う。第三世代農民工の都市適応のプロセスについてわかったことを整理し、第三世代農民工にとっていかなる社会関係資本の内実を究明していく。第 5 章ではインタビュー調査の結果を分析した後、第三世代農民工はどのような社会資源を持っており、その資源は都市生活への適応にどのような影響を与えているかについて明らかにし、本研究の課題について述べる。

インタビュー調査の結果、以下のことが明らかになった。

第一に、目的志向的に人間関係ネットワークを再構築している農民工の若者が確認できた。移動する前から持っている資源より、都市部に移動したあとに構築した人間関係の方が都市への適応にとって有利である。

第二に、オンライン上においては質の高い社会関係資本を多く得ることができる。デジタル時代の現在、誰もがインターネット上で情報を獲得し、SNS を通じて、現実の友達に発展し、さらには仕事を紹介してもらうこともできる。しかし、オンライン上の社会関係資本にもまた格差がある。趣味や遊びに関するネットワークからは質があまり高くないものの多様な資源を得ることができる。これに対して、インターネットにおける情報リテラシーを持っていると、より希少な情報を知り、さらに自分にとって有効的な資源とすることができる。こうした資源は会社の同僚より、多様性のあるリソースとなるだろう。

第三に、個人のキャリア形成と社会関係資本との間には関連がある。職場での社会関係資本が豊富な人ほど、将来的には起業や転職を考えていることがある。資源を多く持つ人ほど、転職しやすく、転職後もその資源を活かして問題解決に取り組むことがある。

また、以前に比べて戸籍制度は緩和しているが、制度上の差別と地域の隔離は未だに存在している。都市の内部でも農民工の居場所は城中村であるというのが世間の人々認識している。